

2020年8月25日
デジタル教科書の今後の在り方に関する検討会議
第3回

外国人児童生徒等の
学習支援／教育における
デジタル教科書等の利用の可能性(期待)

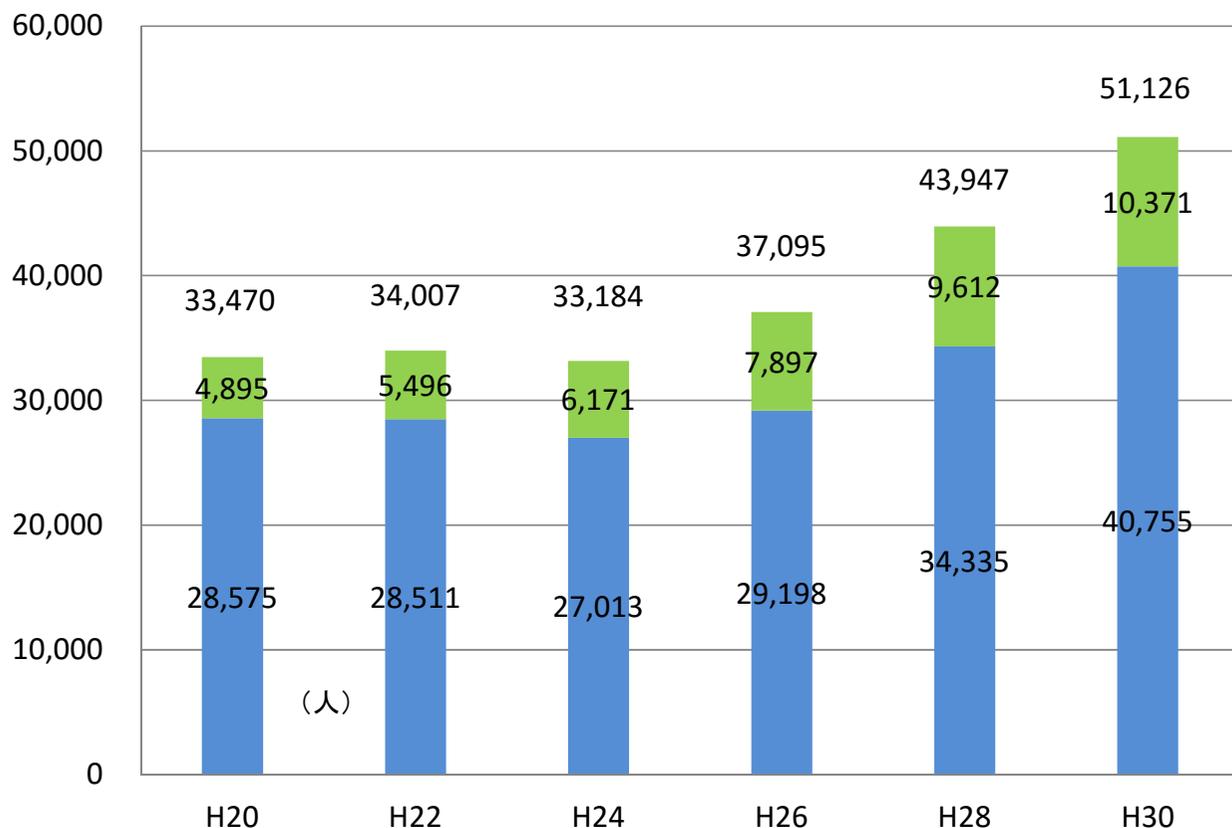
東京学芸大学教職大学院
齋藤ひろみ

1 外国人児童生徒等の指導・学習支援の状況

(1) 日本語指導が必要な児童生徒等の在籍数

公立学校(小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校)における児童生徒の推移

(出典)文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成30年度)」



10年間で

日本語指導が必要な児童生徒は**1.5倍増**

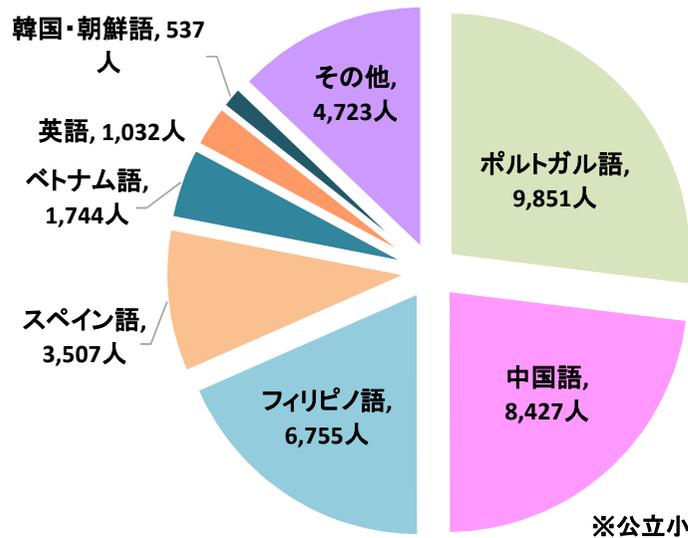
青:外国人児童生徒は**1.4倍増**

緑:日本国籍児童生徒は**2.1倍増**

外国人児童生徒等は、「増加」「多様化」が進み、学校教育が取り組むべき「課題」

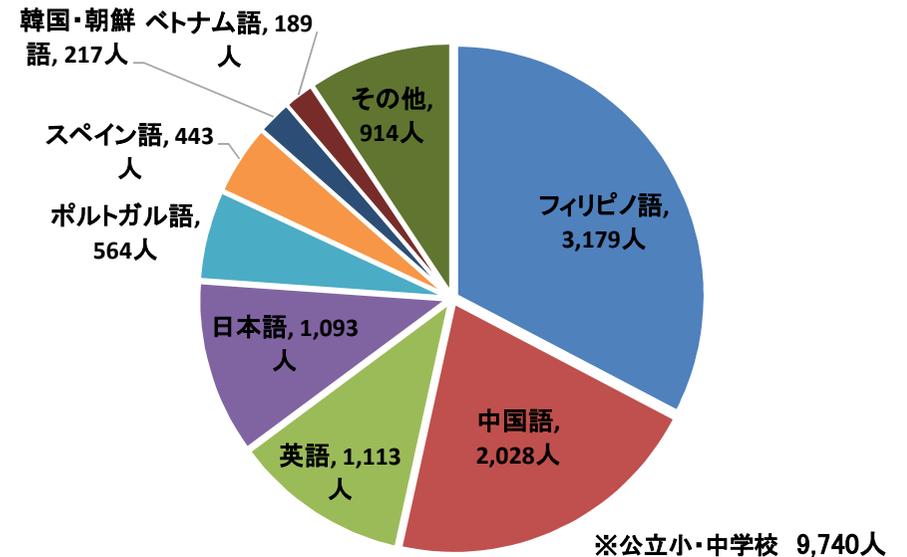
(2) 児童生徒の多様化

外国籍児童生徒の母語



「その他」の言語
 インドネシア語、ウルドゥ語、タイ語、ネパール語、ベンガル語、モンゴル語、ロシア語、アラビア語、マレー語、パシュトゥー語 等

日本国籍児童生徒の比較的使用頻度の高い言語



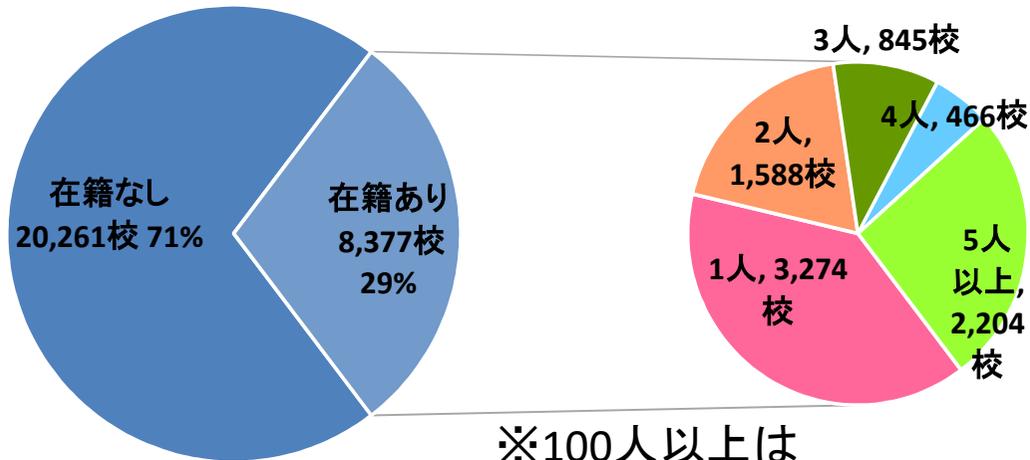
- ・ 母語・母文化の多様化
- ・ 文化間の移動歴の多様化 母国 → 第2の国 → 第3国 → 日本
- ・ 家庭の言語・文化の複雑化 (国際結婚・再婚家庭の増加)
- ・ 日本生まれ・育ちの二世の増加

特定の言語・文化を前提とした支援・教育方法のみでは対応不可 ……個に応じた指導が必要 3

(3) 学校の受入れ数と指導の有無

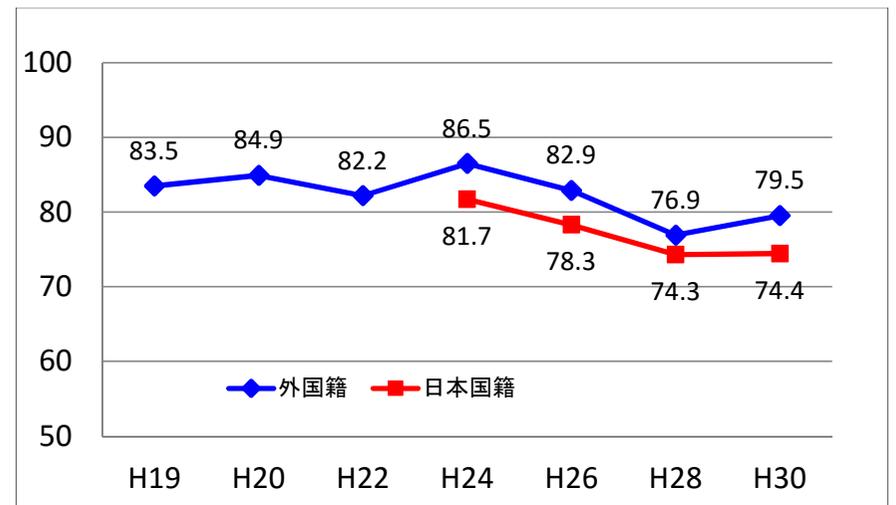
公立小・中学校に日本語指導が必要な児童生徒が在籍する学校数

(公立小・中学校 28,638校)



※100人以上は
全都道府県で13校

「特別な指導」を受けている日本語指導が必要な児童生徒が在籍する学校(割合)

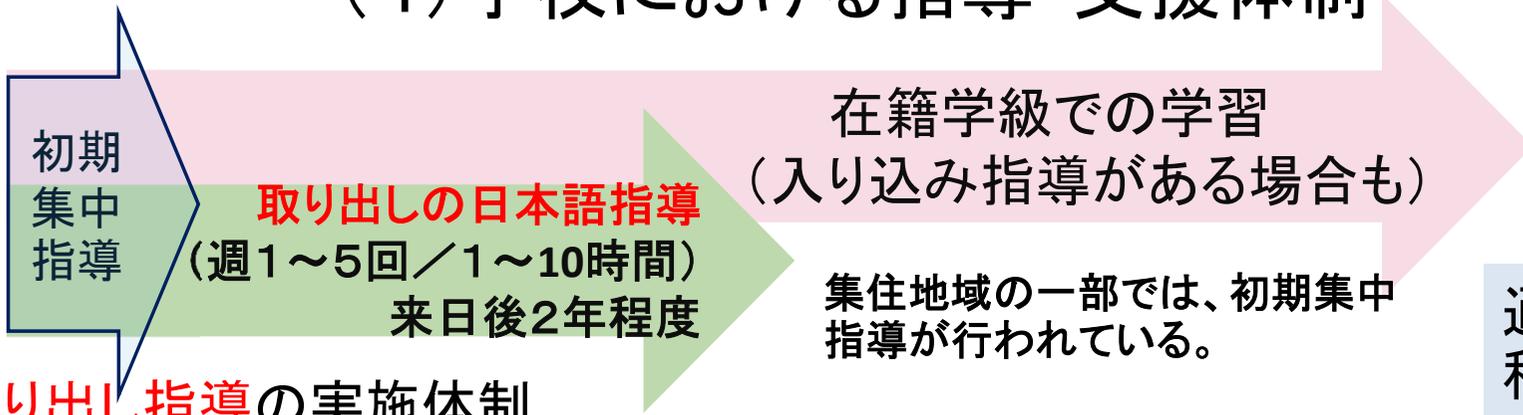


出典: 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査(平成30年度)」

児童生徒等の在籍は集住・散在の二極化
⇒自治体・学校による受入の体制の違い
⇒学校の指導・支援の有無
教育内容・実践の蓄積等に格差

体制の格差を是正するための方策として、遠隔支援と、そのための学習材の開発が期待される。

(4) 学校における指導・支援体制

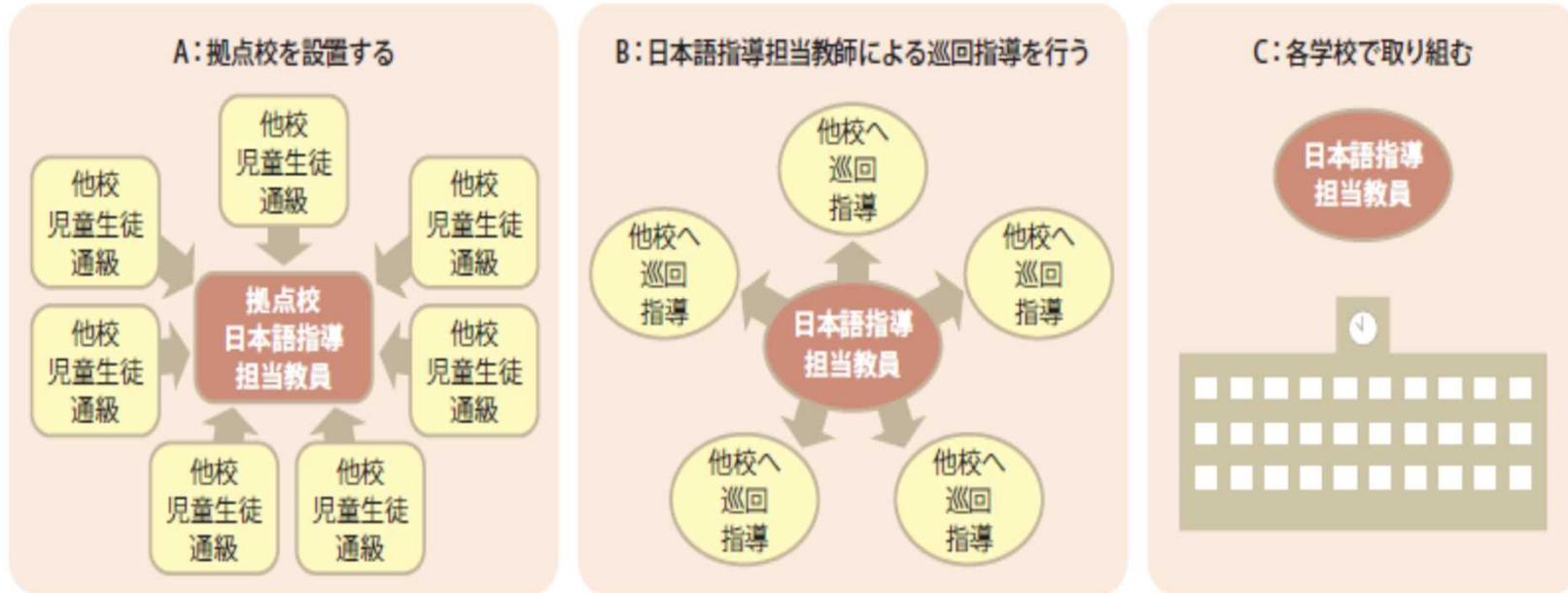


- ・在籍学級では、サブマージョン状態
- ・おしゃべりができる頃に指導は終了

通常授業への参加、教科書の利用は困難

取り出し指導の実施体制

(市区町村・学校によるが、おおよそ次の3タイプのいずれか)



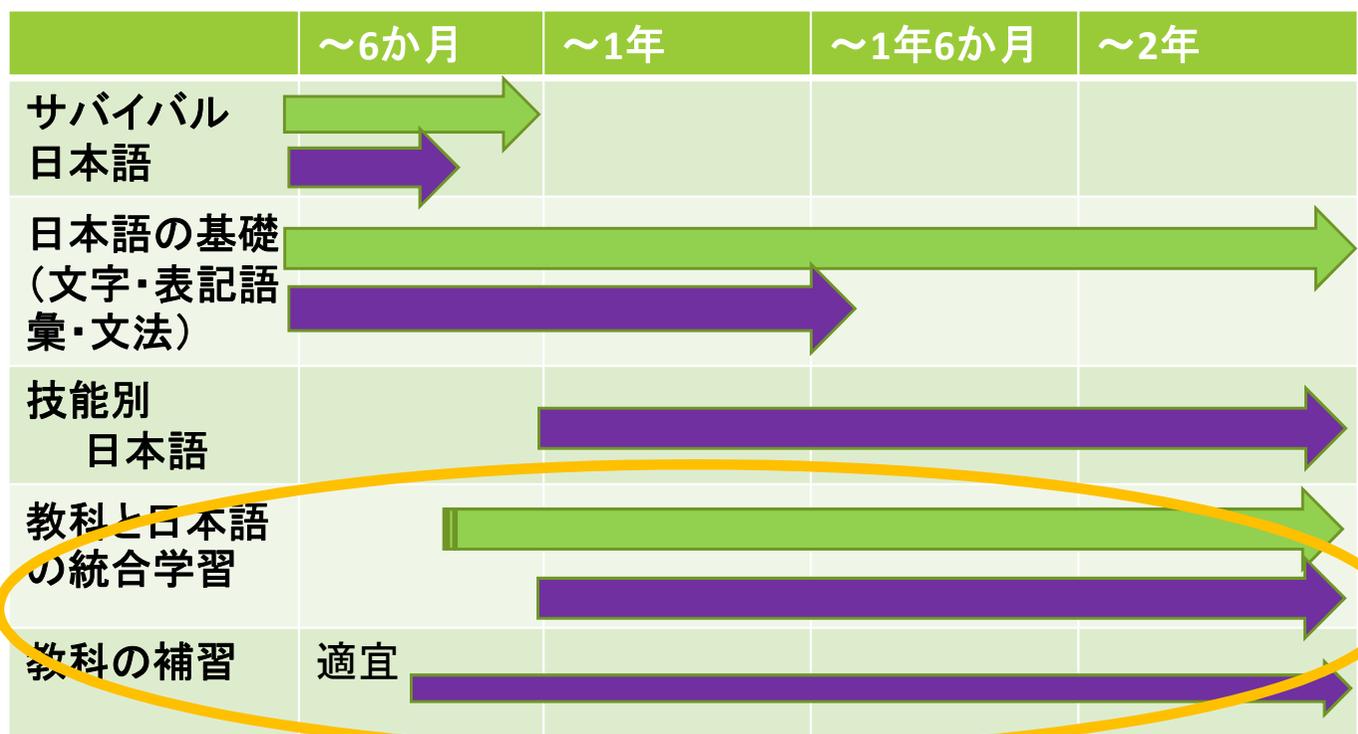
指導状況の違い
指導の場・環境、頻度・時間、担当教員の専門性

日本語の習熟度は一律ではない。教科書学習には、個に応じた支援と理解可能な教材が必要。

(5) 取り出し指導の内容(日本語指導のプログラム)

文部科学省(2019)『外国人児童生徒の受入の手引き(改訂版)』より

緑: 小学校低学年 青: 小学校高学年以上



サバイバル日本語:

学校生活・社会生活を送るためのコミュニケーションの力を育むための日本語 **(生活言語能力)** の指導

日本語基礎:

日本語の基礎的な知識・技能を身につけさせるための日本語指導

技能別日本語:

文章の読み書きなどの力を高めるための指導

日本語と教科の統合学習:

学習に参加するための日本語の力 **(学習言語能力)** と教科の力、両方を高めるためのクロスカリキュラム型の指導

教科の補修

↑ 日本語の学習に並行して教科学習を行う。日本語の習熟度(≒滞日期間)・母語の力、教科の力、認知面の発達状況等に応じて、ルビ振り、リライト、図式化、訳語を付す等、児童生徒の実態に応じて工夫を施して、教科書を利用。**(教員の力量と熱意頼り)**

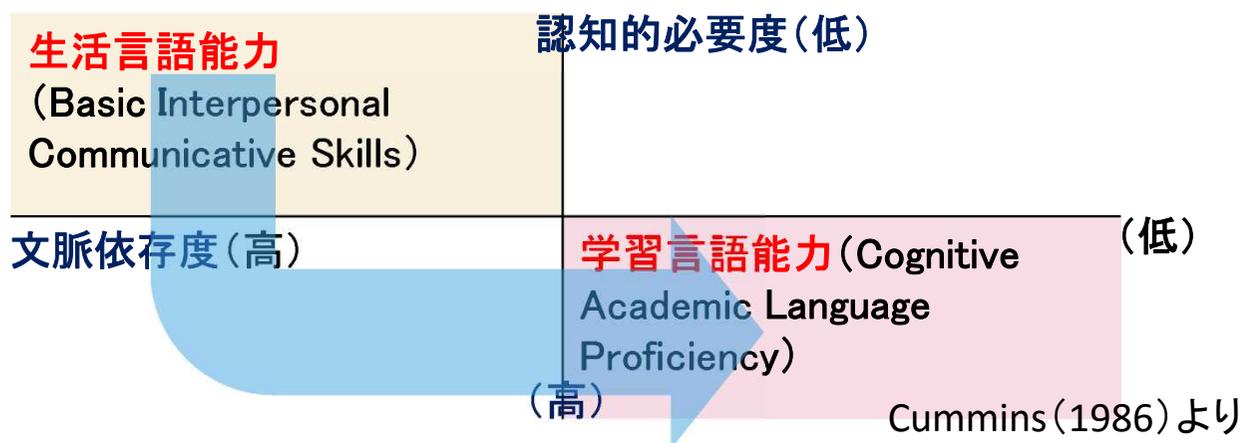
2 外国人児童生徒等の「教科書」による学習の困難

日本語の習熟度による困難(滞日期間にも関連)

文字－音の対応が未習熟、語のまとまりを捉えて理解することも困難。	文字は読めるが、理解できない語が多く、文の意味が理解できない。	文の意味は理解できるが、事柄を関連づけて理解するには支援が必要。	文章の意味を理解できるが、教科概念・見方の形成には支援が必要
生活言語能力を発達させる時期(～2年) 言語以外の情報を利用しながら、対面の日常的な会話ができるようになる。		学習言語能力を発達させる時期(～5-7年) 学習場面で日本語で思考する活動ができるようになる。	

その他の困難の要因

- ① 当該教科の学習経験、知識・技能
／生活経験
(出身国・地域のカリキュラムによる)
- ② 認知面の発達状況
(来日時の年齢による)
- ③ 母語の発達状況 (母語で学習する力があるのか、読み書きの力は？ ★漢字圏？)



デジタル教科書・教材の活用は、生活・学習経験と育んだ力を活かす支援になる。
視覚情報等の文脈の支えで既有知識・経験を活性化し、思考することを可能にする。

事例1 中国帰国生徒の作文より

小1の時、毎日のように泣いていた。日本語がわからなくて、**もどかしくて**…。泣けば助けてもらえた。

3年の時、担任の先生が、**なかよし教室(日本語教室)**での勉強を勧めてくれた。うれしいことが二つ。言いたいことを**理解してくれる友達**ができた。楽に**話せる**ようになった。

中学生になり、国語ではわからない言葉が増え…**先生の話が分からない**、慣れていない人とは**誤解が生じる**こともある。だけど、自分の気持ちを自分の言葉で伝えたい。たくさんの人とつながりたい。

事例2 小学1年生の外国人児童への デイジー教科書による読みの支援

1学期の間に平仮名を覚えることができず通級に入級した。9月当初は、ひらがなを覚えていないため、「読み」ができなかった。**デイジー教科書**で学習を始め、最初は「**見て聞く**」ことに徹した。少し声ができるようになり、10月頃から「**追い読み**」を行うようにした。11月頃から、ゆっくりではあるが、「**同時読み**」もできるようになった。12月になる頃には、既習の文章ならば**一人でも読める**ようになってきた。(略)

3学期になると、読みがかなりスムーズになった。3月になってから行った単元毎の試験は、**読み上げ支援なし**でできると自信を持って取り組むこともあった。

文部科学省「外国人児童生徒等における教科用図書の使用上の困難の軽減に関する検討会議第2回資料 井阪・楠・金森報告」より

3 デジタル教科書の利用による

外国人児童生徒等の学習・授業参加の可能性

(1)「教科書」の内容理解を促すために(⇒日本語の力の発達)

課題	デジタル教科書の機能・教材	利用による効果
文字(形・音)の認識	①読み上げと文字のハイライト できれば、肉声による音読 ②漢字の振り仮名(学年配当による ／任意で 付加も削除も可能)	・文字と音の対応関係を学べる。 ・進度に応じて、漢字を学べる
文の意味の理解 (形式—意味— 機能のマッチング、 理解可能なイン プット)	③語彙レベル(文節) 分かち書き ④任意の語の色分け(色付け) ⑤教科の用語を操作すると、参照先 の挿絵・図 写真、或いは母語訳な どが表示される。	・語のまとまり、意味のまとまりを把握できる ・言語形式(例えば特定の語に意識が向けさせられる。(フォーカス・オン・フォーム) ・教科の用語を視覚情報をもとに理解したり、母語で得た知識に結び付けて理解できる。
文章の構成を捉え、内容を理解 (主に国語科)	①挿絵のみを表示する／文章の一部 部分を空白(白紙)にする。 ②内容のまとまりで切り出す。 ③段落の関係を構造図として示す (教員が作る)	・スキーマを活性化して、トップダウン型の読みができる(内容を予想しながら読み進める)。 ・並べ変える、併置して比べる等により、事柄の関係を捉えられる。 ・文章構成を図式化して理解できる。

(2) 学習活動への参加(学び合い)を促すために

学習参加上の困難	デジタル教科書の機能・教材の活用
学んでいる所がわからない	教師が、教科書を拡大表示し、マーカーで書き込みをして示す。
気づきを言語化できない	気づきや疑問の「アイコン」を決めて、教科書に貼り付け、保存する。
言語による思考が難しい	文章や図表を抜き出して関連する語・表現を書き込んだものをカード化。それら进行操作しながら推論する、思考したことをそれらの操作で表す。
概念形成に困難がある	教科書の内容に合わせ、動画・アニメーション教材をセクション化する。各セクションに教科書からことばを拾ってタイトルをつける。タイトルの関係を図式化して、概念形成を促す。

(3) 自律的に学ぶため (家庭では支援が得にくい)

自律的な学び	デジタル教科書の機能・教材の活用
分からない事を調べる	教科書で学んでいて分からない箇所をマークするとリスト化される仕組みがあれば、PC・タブレットの事典・辞書などで調べやすくなる。
学習を記録し計画を立てる	学習した履歴が記録される／簡便に記録できる仕組みが備わっていれば、学習を振り返り計画を立てやすくなる。
オンライン等で支援を受ける	上記の仕組みがあれば、オンラインでの支援で何が有益か、支援者が把握しやすくなる。画面で教科書の内容を共有できる。

4 外国人児童生徒等を対象としたデジタル教科書・教材の活用 において検討が必要な点

どこで、誰が、利用するのか

- ・取り出し指導の場
少人数で、1対1での学習
日本語指導専門の支援員は活用できる？
- ・在籍学級での通常授業の場
一斉指導の中で
日本語の習熟度に配慮した活用ができる？
- ・自宅で
自学自習のために利用
家庭での支援は困難
- ・地域の支援教室等で**(利用は可能か？)**

個に応じたデジタル教科書の活用

- ・日本語の習熟度、教科等の学習経験に応じて
 - ・支援・指導の状況に応じて
 - ・児童生徒の家庭・学習環境に応じて
- ↓
- ・外国人児童生徒を対象とするデジタル教材の開発
 - ・オンライン学習システム化の早期実現
 - ・日本語指導×教科指導×ICT活用の専門性を有する教員の養成

デジタル教科書の有効な活用には、外国人児童の「教科学習の困難」の理解と、環境の整備、そして支援ネットワークにおける活用を可能にする制度設計が必要